

平成24年度 市長と語る会 （駄知町）

日 時 11月1日 19:30~20:50

場 所 駄知公民館2階ホール

参加者 31名

<事前質問及び回答>

質問	交通死亡事故が増加しており、中でも高齢者の死亡事故比率が大変高いと聞く。交通弱者である高齢者、幼稚園児・小学生などを交通事故から守るために、全ての市道に歩道を最低2m確保するとともに、車道と歩道は道路上の色により容易に区別できるようにしていただきたい。
回答	全ての市道に歩道を設置するのは物理的に困難である。カラー舗装については、地域の方の意見を伺いながら、順次進めていきたい。
質問	市道の側溝に蓋がなく、危険な箇所が駄知町内（特に旭ヶ丘）に多くある。事故防止にもなり、歩道幅も確保できることから歩行者の多い所から早急に側溝に蓋をしていただきたい。
回答	旭ヶ丘の側溝整備については、今年度より順次実施している。その他の危険箇所については、町内要望として提出いただければ順次対応させていただく。
質問	市の行事の多くは、セラトピアやウエルフェア土岐、文化プラザなど駄知町外で開催されるため、現場へ行く足の確保と交通費に困っている。また、行事の際は、現在運行されている市民バスでは時刻が合わないため、臨時便を運行していただきたい。
回答	現在、市民バスは3台で運行しているが、各車両ともタイヤを詰め込んでいるため、臨時便に対応することは困難である。ウエルフェア土岐へはデマンドタクシーの「のってこ」が運行しており、駄知町内各域の停留所からウエルフェア土岐へ直接行くことができる。また、総合病院や文化プラザへは東鉄バスが運行しており、営業運行路線外を市民バスでカバーさせていただいている。市民バスは必要最少限で運行していることをご理解いただきたい。

<意見及び市長の回答>

意見	市役所庁舎も年数が経過しており、耐震化の話も聞くが、コンパクトシティとして、駅周辺に保健センターや図書館などとあわせた複合施設の新庁舎を建設してはどうか。
回答	耐震化について、庁舎は築後46年が経過しており、水周りや電気系統など老朽化している。耐震補強工事を行っても無駄になる可能性もあるため、建て替えについても選択肢として考えているが、市民の皆さんをはじめ、多くの方の意見を聞いて進めていきたい。コンパクトシティは良い考え方であると思うが、駅周辺は建築するスペースがないため、建て替える場合は現在地もしくはその周辺でと考えている。
意見	土岐市は多くの市有地を持っているため、民間に売り払い、宅地化及び分譲を進めるべきではないか。
回答	今年2回ほど市有地の売り払いを行っている。半分程度は買い手が付いたが、残りについては順次処分を進めていきたい。ただ、市有地は多くあるが、山林が多いため、分筆が必要となり、時間やコストがかかってしまうため、すぐには処分できない。
意見	泉の河合地区に駅をつくれれば駄知からも近くなり、利便性や地価が上がり、市にとってもメリットがあるのではないか。
回答	河合地区での区画整理の話が出た際に河合の駅についても話があったが、鉄道と国道の間隔が狭いこと等から実現していない。JRからも河合に駅をつくることはメリットがほとんどなく難しいとの話を聞いている。
意見	旭ヶ丘へ上がる西山道路が以前図面化されたと聞くが、現状はどうなっているか。
回答	道路を1本建設するのに10億円ほど必要となる。事業としては国からの補助を受けて実施していくことになるが、国の補助も大きく縮小されてきている。市内には用地の問題や財政状況により事業が進んでいない道路がいくつかあるが、国や県の財政状況も厳しいため事業実施は当面困難な状況である。

意見	老人クラブのイベント等の際のバスの臨時便について、免許のない高齢者も多く本当に困っているのでは、是非検討していただきたい。また、駄知町は人口減少や店舗の撤退などもあり、空き家や空き工場が増えている。何らかの対策を考えていただけないか。
回答	駄知町は市内で2番目に高齢化率が高い。曾木町では人口減少や耕作放棄地、活性化などの対策を地元で考える委員会を立ち上げられている。行政でも対策を検討するが、地元のまちの方も自らで対策を考え、提案していただきたい。 バスについては今後高齢者等の足の確保として全市的に考えていく必要があるが、現在の市民バスを運営するだけでも多額のコストがかかっている。イベント時のみの臨時便の運行については他地区との調整も必要となるため、持ち帰り検討させていただく。
意見	駄知町ではスーパーがなくなり、日常生活を圧迫している実態がある。曾木や鶴里も同様ではあるが、食料品などを扱うスーパーの誘致を前向きに考えていただきたい。駄知町の人口減少は著しく、まちが寂れつつあるため、元気になるまちづくりを考えていただきたい。
回答	スーパーについては、行政が誘致するという事例は聞いたことがない。スーパーなどは利用があれば民間が事業展開されると思われるので、地元の店は地元で利用するなどその店を活用していくことが大切であると考えている。 駄知町の人口減少は陶磁器産業の低迷による影響が大きいと思われる。陶磁器産業については、何とか維持・発展させていきたいと考えている。また、陶磁器の工場跡地を別業種の事業者が利用している事例もあるため、そういったことも皆さんと共に考えていきたい。
意見	陶磁器産業は景気がいいと思われるか。 現在駄知には商業組合、工業組合、上絵付組合、小売商組合と4つの陶磁器関係の組合があるが、近年は組合員の数も減少し、組合長のなり手もない状況である。何とか陶磁器業界を助けるアイデアをいただきたい。
回答	景気は全体から見ると悪いと思われる。 陶磁器産業は市場規模や出荷額が減少してきており、作れば売れるという時代ではなくなってきた。しかし、シェアは日本一であり、何とか良くしていきたいと思っはいるが、具体案となると難しい。
意見	高齢世帯が施設に入ると、自宅が空き家になってしまう。壊すのにも費用がかかるが、壊しても土地が売れないのが現状であり、どうしたらよいか。
回答	今後人口減少に伴い空き家が増えることが予想される。全国的に同様の問題があるが、具体的な解決策がなく、これからの課題であると考えている。
意見	何点か質問・要望させていただく。 ①環境センターに直接ゴミを持ち込めるのが平日の昼間だけであり、日中勤めていると持っていけないため、月に1回でも土日にも持込できるとありがたい。 ②ペットボトルのふただけでなく、その他のプラスチックごみについても分別回収をしてはどうか。 ③ゴミ出しのマナーが悪くなっているため、ゴミ出しのパンフレットを再度配布していただけないか。 ④市役所の業務に関する分野ごとのハンドブックがあるとありがたい。 ⑤どんぶり会館は休館日があるが、遠方から来ていただく方も多いため年中無休にしてはどうか。また、雨天時でも休憩できるスペースはつくれないか。
回答	①直接環境センターに持ち込む人は少なく、そのために職員を出勤させるのは非効率である。年末年始や町内清掃時などニーズに合わせて対応している。 ②プラスチックゴミについては上手く再利用できなければ燃やすことになるため、現状はそのまま焼却処分としている。 ③ゴミ出しのパンフレットは、工夫して分かりやすいように作成したいと考えている。 ④市の業務のハンドブックについては、転入者には配布しているが、介護保険など制度が頻繁に変わるため、最新の情報を掲載するのが難しい。市のホームページなどで情報を得るなどの対応をお願いしたい。 ⑤どんぶり会館は物販の部分は委託しており、可能かどうかは分からないが提案はさせていただきます。トイレ等道の駅部分については年中開いている。
意見	消防団の団員は未婚者が多い。以前市の主催で婚活パーティーをされたと聞かすが、最近はないようなので、ぜひ出会いの場をつくっていただきたい。

回答	市（土岐市青年団体協議会）でふれあいパーティーを行っている。もっと広く周知できるようにPRに努めさせていただく。
意見	救急救命講座について、救急救命の手法の説明はあるが、その大切さや重要さなど受講者を増やすための説明がなかった。また、駄知町の人口9千人弱に対し、30人ほどの参加であったが、もっと計画立て、参加者を増やす取り組みをするべきではないか。
回答	講座自体は実演などもあるため30人程度が限度であると思われる。救急救命講座に限らないが、こうしたイベントになかなか参加していただけないのが現状である。やる気のある方は参加していただけるが、人を集めるのは難しい。ただ、周知や呼びかけなどの取り組みはしていきたい。
意見	夜眩し過ぎるとのことで歩道橋の水銀灯が切られているが、歩く際に暗いため、LED化等の検討はできないか。
回答	夜歩く際には懐中電灯等で照らしていただいたほうが安全であると思うが、一度調べさせていただき、可能であれば対応したい。
町内会長	本日出席いただいた方に感謝する。本日はいろんな意見が出されたが、やれることから優先順位をつけ検討し、対応をお願いしたい。なお、目に見える対応をしていただけるとありがたい。 市長は選挙の際に3つのまちづくりに取り組むと言われていたが、駄知町は不況の中にあり、人口減少を食い止めるためにも、特に元気なまちづくりとして企業誘致を進め、雇用の確保に努めていただきたい。